



INTA 2024年次総会 (米国アトランタ)参加レポート

1. はじめに

私は2024年5月18日から22日にかけて米国アトランタで開催された国際商標協会(INTA)年次総会に参加しました。当事務所からは、弁理士及びIP分野を専門とする弁護士の計10名が参加し、このうち私を含む3名が初めてのINTAへの参加となりました。

2. INTA2024年次総会について

INTAは、181の国・地域からの企業など6,400以上の組織と約36,000名の専門家を会員とする、知的財産分野の非営利団体です。毎年5月に開催される年次総会は、商標を中心とする世界中の知財関係者が参加する一大イベントであり、今年は1996年夏季オリンピックの開催地としても知られる米国アトランタに約1万人の会員が集いました。



会場近くの100周年オリンピック公園

公式会場のジョージア世界会議センター(通称GWCC)は、アトランタのダウンタウン中心部に位置し、約150万平方フィート(東京ドーム約3個分)の展示スペースを擁する世界最大級の会議場です。私たちが滞在したホテルはGWCCから徒歩約15分のところにあり、毎日ホテルとGWCC内のミーティン

グ会場とを徒歩で行き来しましたが、広大な建物内を移動するだけでもかなりの歩数となり、3日目には足にまめができました。アメリカといえどこへ行くにもUber(ライドシェアサービス)を使うイメージがあり、実際に1日3~4回はUberを利用しての移動もありましたが、それでも期間中の1日あたりの歩数は1万歩を超えました。特にアメリカで開催されるINTAへはスニーカーの持参をおすすめします。



会場のジョージア世界会議センター

3. INTA期間中のスケジュール

INTAに参加する目的はさまざまありますが、やはり世界中の商標関係者とのネットワーキングが最大の目的でしょう。例年、INTAへの参加登録を済ませた1月頃から、海外の依頼者や代理人からのINTAでの面会や食事のお誘い、カウンセルミーティングやレセプションの案内が届き始めます。案件に関するメールの最後に、「ところで、今年のINTAに参加されるのであればぜひお会いしたい。」という一文を目にすると、今年もINTAの季節がやってきたのだと思います。

かくして、当事務所の参加者のスケジュールは、各人が一人でも多くの依頼者や代理人

と面会するべく、朝食ミーティングからディナーまで、30分～1時間単位でみっちりと予定が組まれていきます。私も、事前に1日あたり約7件のアポを組み、朝から晩までアトランタのさまざまな場所を駆け巡って多くの依頼者や代理人と会うことができました。ランチミーティングのない日は昼食もとれなかったりする一方、アポの合間のわずかな時間を利用して観光（アトランタはアメリカ最大の水族館があることで有名です。）を楽しむこともできました。なお、期間後半にもなると、面会相手との雑談のトピックにも困ってくるところ、この隙間時間を利用した観光のおかげで、「昨日〇〇に行ってきたんですよ。」と写真を見せながら会話を弾ませることができ、コミュニケーションにも役立ちました。



会場内の広大なミーティングポイント

4. INTAに参加するメリット

INTAの醍醐味は何といっても海外の依頼者や代理人と直接会って話すことができるという点です。入所以来ずっとメールでやり取りしていた依頼者と初めて対面できたというだけでも感慨深いうえに、食事を楽しみながらプライベートな話題で意気投合したり、日頃の業務に満足しているという感謝の言葉をいただいたりと、想像以上に充実した濃密な時間を過ごすことができました。依頼者を前に、「自分は弁理士としてこの人のために頑張るのだ。」というモチベーションをより強く持つことができたのも、INTA参加の大きな収穫のひとつです。



会場正面の記念撮影スポット

5. おわりに

コロナ禍には対面の開催が見送られたINTAでしたが、今年はまさに「Back to Normal」の言葉どおり、参加人数も例年の水準に戻り、会場周辺はお揃いのINTAバッジを付けた参加者で溢れかえるという、いつものINTAの光景がみられたのではないかと思います。

最終日の夜に巨大なスポーツスタジアムを貸し切って開かれたグランドフィナーレでは、過密スケジュールを乗り切った達成感に浸りながら、各国代理人と記念撮影をしたりして最後のコミュニケーションを楽しみました。今回のINTAへの参加によって得た知見やネットワークを、今後の業務に大いに生かしたいと思います。



グランドフィナーレの会場

筆者紹介

小林 奈央（こばやし なお）

東京外国語大学東南アジア課程インドネシア語専攻卒。新聞記者等を経て2016年弁理士登録。同年9月よりTMI総合法律事務所勤務。専門は商標で、国内外の権利化・紛争等、幅広く取り扱う。